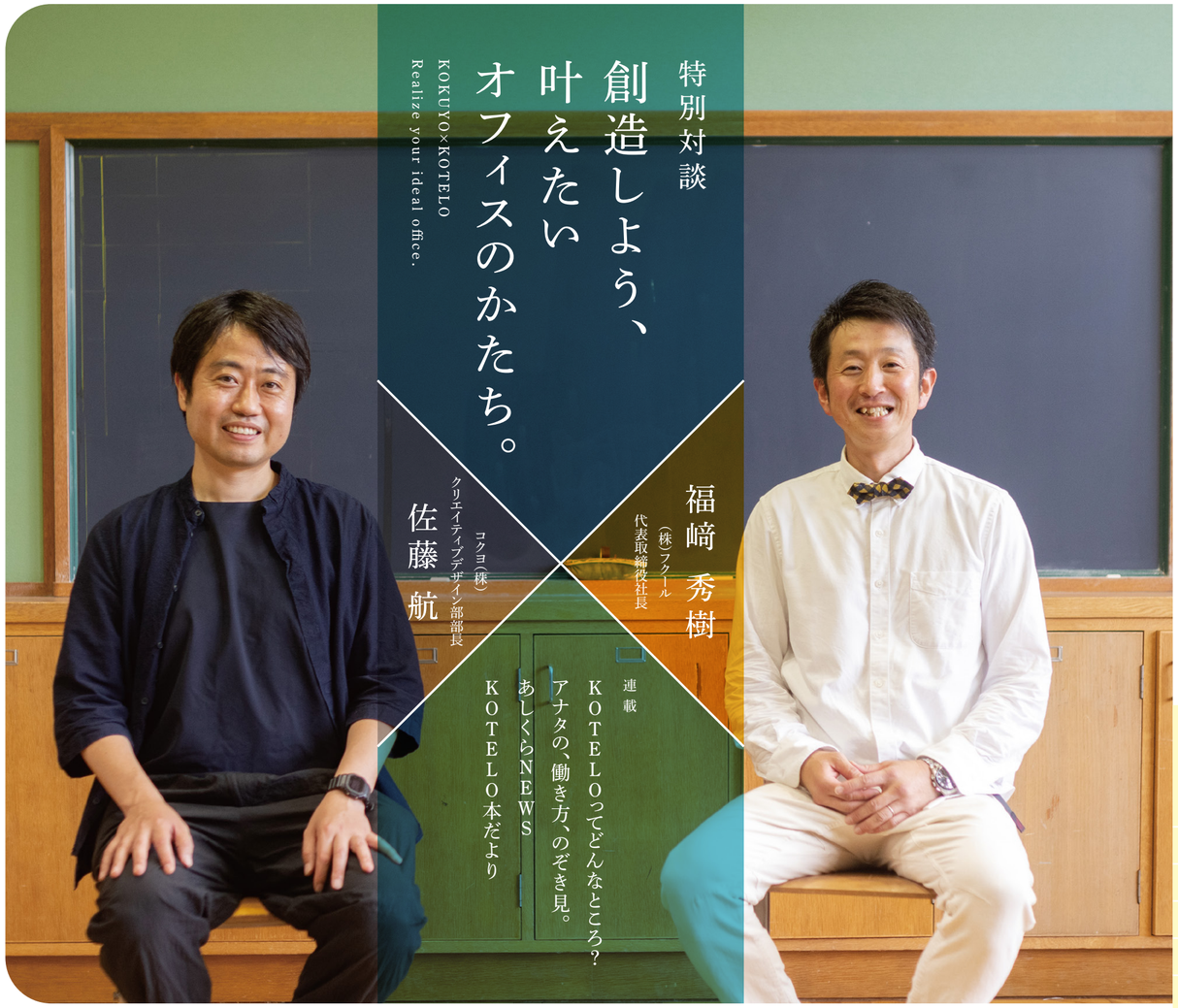
自然な自分に出会える山のオフィス

KOTELO しんぶん

Vol. 02

2022 Autumn

TAKE FREE



KOTELOしんぶん Vol.02　令和4年9月23日発行　発行元：KOTELO　www.sanagi.net

変わりつつあるオフィスの在り方

―6月16日に開催したフクールフェアでの「オフィスはどこに向かうのか？」パネルディスカッション、盛り上がっていましたね。

福﨑：すごく面白かった。今後のオフィスをどのように考えていこうかという問いを突き付けられましたね。これまでもフクールフェアは毎年開催していて、おすすめのサービスを紹介してお客様に見ていただくという商品の展示会をしていました。しかし今回のフェアでは、時代が変わって働き方も変容し、コテロという新しいチャレンジをさせていただけるようにもなった中で、改めて働くことやオフィスについて考えを深めたいと思ったのです。

―数々のオフィス空間のデザインを手掛けてきた佐藤さん。オフィスはどのように変わってきているとお考えですか？

佐藤：新型コロナウイルス感染症によってオフィスの機能的に分かれていた境界線が溶けて重なり合ってきて、働くことやオフィス自体も自由で魅力的なものに変わってきていると思います。オフィスはただの執務スペースではなくなってきていますよね。自分でできる執務は、自宅でもどこでもできますし、機能別に場所をデザインするというよりも、働く人の一日のライフスタイルの中でオフィスをどう活用していけるかといったように、少し引いた目線でオフィスをデザインするように変化してきています。

―リモートワークが普及して、どこでもオフィスになりうる時代ですよね。

佐藤：まさに働くことの本質に近いと思います。まちとオフィスのそれぞれの機能を分かち合うカルチャーが広がっていくと、まち全体が快適なワークプレイスになりますよね。ライフとワークの両方の領域がより豊かになるのではないかなと思います。（中面に続く）

連載 あしくらNEWS

布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）が5年ぶりに開催されます

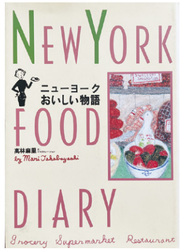
今年、令和4年9月25日に布橋灌頂会が、開催されます。
開催は2017年以来、5年ぶり。新型コロナウイルスの感染防止対策として無観客とし、規模も縮小した形になります。
地元、芦峅寺や立山町、富山県にとっても重要な文化遺産の一つですし、KOTELOが芦峅にやってきての初めての布橋灌頂会になります。
規模は例年よりも大幅に縮小されるそうですが、楽しみです。
私たちKOTELOスタッフもボランティアとして参画させて頂きます。

布橋灌頂会とは？

布橋灌頂会とは、立山が女人禁制だった江戸時代に、極楽往生を願う女性の救済のために営まれた儀式です。布橋の下を流れるうば堂川を三途の川に見立て、布橋はこの世（此岸）とあの世（彼岸）の境界と考えられていました。女性たちは白装束をまとい、目隠しをして布橋を渡り、うば堂内で念仏を唱え、再び布橋へ戻ります。無事に渡り切ると、死後に極楽浄土に至ることができると信じられていました。明治初期の廃仏毀釈によって儀式は廃れましたが、平成8年の国民文化祭で136年ぶりに再現されました。

連載 KOTELO本だより

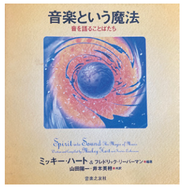
おすすめの二冊



ニューヨーク おいしい物語

著者：高林麻里　出版社：東京書籍

1980-90年代の美しく活気に満ちたN.Y.の様子が丁寧な文章と可愛らしいイラストで紹介されています。私がこの本を手にとったのは、小6の時。「届ける」というジャーナリズムの真髄に初めて触れた体験でした。



音楽という魔法

編著：ミッキー・ハート,フレドリック・リーバーマン
（共訳：山田 陽一,井本 美穂）
出版社：音楽之友社

ロックバンド「グレイトフル・デッド」のドラマー&リーダー、ミッキー・ハートが編纂した「音楽という魔法」にかかった人たちの言葉の数々。カタチのない人の想いを、カタチのない音やリズムで表現する、ということ。苦しくて美しい人間の愛情表現だと思う。

今回の紹介者

佐伯 エリさん

群馬県を拠点にフリーで活動するウエディングプランナー。子供の時から本と、本を読む人が好き。小説家に憧れた時期もあったけれど、今は結婚式の中でお客様の人生の物語を紡ぐことが幸せ。ビールラバー。

KOTELOトピック

イベント情報のご案内

2022 SCHEDULE

1周年 KOTELOの記念文化祭

9/23 fri 10:00-20:00

様々なワークショップや展示ブース、飲食ブースなどなど…
これまで一緒にKOTELOをつくってきた方々による
約30のコンテンツがKOTELOに大集結！

もりの学び舎♪音楽会

星とつながるYOGA

給食の時間

ヴィーガンアイス

彫刻体験

椅子の価格順番並べ替えゲーム

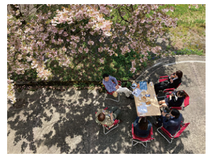
イベントの詳細情報は
ホームページにて
随時更新しています
www.sanagi.net

ARCHIVES

4月

お花見

KOTELOの桜が見頃を迎え、ご利用者さまとお花見をしました。



白駒さん講演会開催

KOTELOらしい人財育成コンテンツがスタート。記念すべき第一回目は、博多の歴女「白駒 妃登美」さんをお呼びして、日本の歴史を紐解きながら、日本人の生き方や心を学びました。KOTELOでの開催ということで「日本人の心とハタラク」というテーマを用意していただきました。社員さん向けと、経営者（リーダー）向けの二部構成でしたが、両部ともたくさんの方にお越しいただきました。

5月

あしくらさんぽ

参加者の皆さまに、さんぽを通して色々なものを発見したり感じたりしていただき、さんぽ後は、図工室にて思い思いの作品を制作していただきました。図工室のギャラリースペースがとても賑やかになりました。

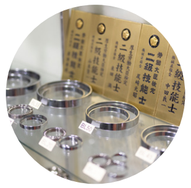
6月

Fukull Fair WorkPlace DAYS 2022

KOTELO運営元の株式会社フクールが毎年開催している「フクールフェア」をKOTELOで開催。例年のような商品展示ではなく、参加者の皆さまに考えていただくための『問い』を散りばめた、メッセージをお届けするイベントでした。会場には、対談やパネルディスカッション、モヤモヤ・ワクワクしていただけるワークプレイスゾーン等を企画展示しました。

株式会社 **内山精工**

社長 **内山 彰博** さん



アナタの、働き方、のぞき見。

このコーナーでは、KOTELO スタッフが気になる企業様を訪ねて、
社長やスタッフさんの仕事への想いや働き方についてインタビューします。
今回は、上市町で軸受部品の旋削を中心とした機械加工を行う「株式会社 内山精工」に伺いました。

Q1　どんな仕事をしていますか？

鉄道車両やエレベーターなどに使用される、一般産業機械向けの金属部品を製造しています。私たち内山精工の特徴は、細かな加工に時間がかかる量産に不向きな金属部品にも技術を駆使して積極的にチャレンジしていることです。100分の1ミリの精度のものづくりに日々向き合っています。

社員ひとりひとりが自分事として考えて働ける環境作りにも取り組んでいます。ものづくりの現場で大切にされている「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」を徹底し、自分たちで困りごとを解決しながら環境改善を重ね、快適な現場を築き上げています。

Q2　内山さんにとって、ハタラクとは？

人の笑顔や、喜ぶ姿を見ることが好きです。お客様はもちろんですが、現場の社員みんなが笑顔でいてくれることが一番嬉しいですね。みんなが頑張りたいと思える環境をつくるのが私の仕事だと思っています。社員への感謝の気持ちを形にして伝えたいと考えて、毎年社員全員に誕生日プレゼントを贈っています。年末には、全員が映る一年の振り返り動画を自分で制作しています。内山精工の創業者が掲げた「心・感謝・人の和」を尊重し、これからも感謝の気持ちを形に表していきます。

Q3　これまでで印象的なエピソードはありますか？

私が社長に就任後、初めて開催した社内改善事例発表会に感動しました。当時は不況の最中でしたが、世の中の状況に関係なく一生懸命に現場の環境改善の取り組みを発表している社員たちを頼もしく感じました。自分たちが今できることを前向きに考えて実行に移す姿を見て、みんなが居ればどんなことでも乗り越えられると思えました。

工場内には社員が製作したオリジナル器具も。

Q4　今後挑戦していきたいことは？

自分たちの技術を高めていくことはもちろんですが、地域と共に入づくりにも取り組んでいきたいと思っています。ものをつくるだけがものづくりではないですからね。14歳の挑戦や学校への出前授業、工場見学の受け入れを通して、子どもたちにも心があってこそのものづくりの大切さや面白さを伝えていきたいです。

佐藤：近年では、オフィスの中での人の集まり方も変わってきています。例えば、ここはブレストするための場所、ここは静かに本を読むライブラリというように機能をイメージをしてデザインしても、結局そうじゃない使われ方をしていて面白いものが生まれたとか。オフィスの自由な使い方による“予定不調和”が共創の種になっていますね。

「無敵の経営」を叶えるためのオフィスと人材とは

―福崎さんは、変わりつつあるオフィスの時代の中でどのようなオフィスをつくっていきたいですか？

福崎：2025年にフクールが50周年を迎えるにあたって、50周年を迎えるときにどんな会社になっていたいかを考えました。商品を売らない「無敵の経営」をしたいと思いました。フクールの経営を見て、真似したいとか相談したいとか、一緒に取り組みたいとか。無敵の経営というのは、いわゆる競合がいない経営だと思っています。奪い合うビジネスモデルというのはもう成り立たないと思っていて、与え合うビジネスモデルに変化していきたいですね。しかし、フクールだけでは叶えられないんですよ。だからいろんな企業や地域や人と共に、溶け合いながら新しい価値をひとつずつ生み出していける場所をつくっていきたいと思っています。

―佐藤さんの基調講演の中にも、新しい価値を生み出していくには業界をまたいで交っていく「遠心力のある人材」がこれからの時代に大切になるというお話しがありましたね。

佐藤：「我が社は」という不特定多数の顔の見えない主語で話すというよりは、「僕たちは」という主語のもとに自身の解釈を加えていきながら会社について説明できることが大事だろうなと思っています。僕たちは何を世の中に提供しているのかを自分事に落とし込んで伝えられる人材がたくさんいると、ここは面白い会社だと思って関わりたくなりますよね。

福崎：ひとりひとりが内発的動機で働く会社にしたいですね。私は、技術が高いとか知識があるとかは関係なく、自分の能力を使って世の中に貢献することが働くことだと考えています。そんな人材が成長できる会社をみなさんと共に叶えていきたいです。

PICK UP! PERSON

WATARU SATO

佐藤 航

コクヨ（株）
クリエイティブデザイン部
部長

Profile

コクヨ クリエイティブデザイン部部長／チーフデザイナー／一級建築士。1979年、神奈川県生まれ。WORK・LIFEにまたがる多様な領域をプロダクトから建築までスケール横断でデザイン。KUKAN of the year, reddot best of the bestなど国内外で受賞多数。主な仕事は未来コンビニ／ショップ、カップヌードルミュージアム（ショップ・スタジオ・オフィス）／ミュージアム施設。mot. OTEMACHI ONE／複合施設。BBTower・JINS／オフィス等。

家族構成／4人（奥さま、お子さま2人）
趣味／家族と一緒に、銭湯へ。
休日の過ごし方／いろんな場所で仕事をしながら、家族との時間も楽しむ。海水浴でも、除があれば海の家でテレワーク。次は、立山の山の中でテレワークに挑戦してみたい。とにかく仕事が大好きすぎる！

モルディブで働く
2012年のモルディブに新婚旅行に行った時の写真。思い返せば10年前からワーケーションを実施。

新橋の居酒屋ランチで働く
新橋昼食後、テラス席をお借りして業務。鳥森神社近くのお店にて。

バスの中で働いてみる
最も仕事しにくいだろうとバスの中でも働いた様子。アイレベルで移り変わる街の景色はアイデアの宝庫。

KOTELOってどんなところ？

LOCAL VOICE
地元の方の声

まま to ちゃ武平
佐伯さん・青木さん

Q1 KOTELOができてどう思った？

武平は昨年オープンした食堂&カフェで、KOTELOとは同級生ですね。（笑）本当はスタバを芦峅に呼びたかったけど断念して、自分達でお店を始めました。このお店は、商売というより楽しさが溢れている場所にしたいと思っています。武平をオープンさせた頃、KOTELOの話は周囲から聞いていて「町に灯りが点くね」って噂をしていました。KOTELOがオープンすることで芦峅が賑やかになると希望を持ちましたし、芦峅にとって一つ窓が出来るなと思いました。楽しみでした！実際、都会と田舎とか、仕事と生活とか枠がないのが都会っぽいと思います。そんな都会みたいなことを、近いところで見させてもらっている感覚です。今の時代に合っているのかなと感じます。

Q2 これからKOTELOに期待することは？

芦峅や立山のことを応援してくれている感覚があるし、KOTELOさんに背中を押されている感じがします。今後も、応援して応援されて、お互いに助けて助けられて、そんな関係を続けていけたらと思っています。

Q3 KOTELOを一言でいうと？

熱、エネルギーですね。燃えている感じがします。今まで芦峅にはなかったパワー、ちょっとギラギラした感じです。（笑）それと、ワクワク。今後もずっとワクワクさせて欲しいと思います！

VISITOR VOICE
訪問者の声

米田木材株式会社　代表取締役
米田 大樹さん

Q1 KOTELOを利用しての感想

福崎さんとは以前からお付き合いがあり、そのご縁でKOTELOをご紹介いただきました。しかし芦峅寺は弊社（射水市）から約1時間の距離で、気になってはいたものの、距離というハードルが邪魔をしてなかなか行く機会がなく…。（笑）初KOTELOは今年4月に行われた「社会の時間」というセミナーです。大変興味深い内容だったので、社員と共にイベントに参加しました。

Q2 KOTELOを利用しての感想

普段会社の中で仕事をしていると目先の業務にばかり手を取られ、慌ただしく時間が過ぎてしまいます。KOTELOでは、四季折々の景色を五感で感じながら、心静かに自分自身と向き合い対話をする場所にできたらと思います。日常の業務をKOTELOに持ち込んで、違った環境で気分を変えて仕事をすることも楽しいですが、「考える時間をつくる」ことの大切さを実感しています。

Q3 今後どのように利用してみたい？

月に一度、「KOTELOデー」を作り利用したいと思います。また、社員にも活用してもらい、一人になって考える時間もつくって欲しいと思います。何も考えない時間があってもいいかもしれません。本を読んだり、散歩したり、自然に囲まれて昼寝！？も良いんじゃないでしょうか。日々の忙しさから解放され充電の場所にして欲しいと思います。